



校長 落合浩一

【チャレンジ！平塚中等～作文コンテスト入賞、SSH 発表会、ディベート大会への参加～】

先日、学校に第 66 回「社会を明るくする運動」作文コンテストの入賞作品文集が送られてきた。この作文コンテストは法務省が主唱し、各都道府県より広く公募しており、本校では毎年生徒の作品を出品している。

今回は、現在 4 年次生の根本碧衣さんの作品「気軽にチャレンジ」が日本更生保護女性連盟会長賞（優秀賞）に入選した。

内容を見ると、根本さんは「ボランティア」への参加を通して気づいたこと、感じたことを 3 つ挙げている。1 つは犯罪抑止につながることに、2 つは明るい社会になることに、3 つは自分自身が明るくなり自信がもてることに述べている。さらに今後は、社会の一員として、日本・世界をつくっていく役割を担う当事者として災害被災地支援、2020 東京オリンピック・パラリンピック等に意欲的に参加していきたいと抱負を述べている。そして、何よりも、無理のない範囲でできることや身近なことから始めてはと提案して締めくくっている。

この作品を読んで、私なりの感想を述べると、自分と他者、自分と社会、他者と社会を自分の視点、他者の視点、社会の視点で捉えてみることに、すなわち自分を見失わず、それぞれの立場に立って客観的に物事を捉え直してみることが明るい社会を創る上でとても重要なことであると感じさせられた。私は、これまでの自身を振り返り、また、今後の生徒のことを考えるとき、「自分らしい生き方の創造」を身近なことに気軽にチャレンジしながら問い続けていきたいと思う。

【Atsugi Science Fair 2017 への参加】

6 月 10 日（土）、県立厚木高校及びエレノア・ルーズベルト高校（アメリカ）主催の「Atsugi Science Fair 2017」に 5 年次生の前島千手さん、

板倉悠真さん、中尾魁さん、森田雄大さんの 4 人が参加。本事業は、厚木高校が文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の指定を受けて開催する発表会である。目的は、「参加生徒の科学的探究力を高め国際性を育成すると共に日本生徒の科学英語運用能力を高める。」であり、ポスター発表と口頭発表にそれぞれエントリーして発表を行った。引率していただいた富田先生によると「残念ながら受賞するまでには至らなかったが 4 人とも自分たちの持ち味を出しながらすばらしい発表を行っていた。」と報告してくれた。本校では、「表現コミュニケーション力」「科学・論理的思考力」「社会生活実践力」を育成しているが、さらに日頃の実践に磨きをかけてこの 3 つの力を高めながら次なる発表会に向けて再チャレンジして欲しい。

【第 22 回全国ディベート甲子園関東甲信越地区予選会への参加】

6 月 18 日（日）、2017 年関東甲信越地区中学・高校ディベート選手権（第 22 回全国中学・高校）が女子聖学院（東京都北区）で開幕。本校からは、これまで授業で取り組んできた生徒の中から 3 年生の深山遥さん、益尾広大さん、大江朝日さん、藤井遥香さん、西村真琴さんの 5 名が選抜され予選会に臨んだ。中学校の部は、「日本は小売店の深夜営業を禁止すべきである。是か非か」というテーマで賛成・反対に分かれてディベートが行われた。予選 2 試合、3 試合と勝ち進み、予選 4 試合では惜しくも敗退、予選最終順位は 2 勝の 5 位と健闘するものの今回は全国大会への出場権を獲得することができなかった。しかしながら、全国大会へは 6 校が出場できるため残り 4 校を次回 7 月 16 日（日）の第 2 ステージで決めることになっている。本番まで残り少ない時間ではあるが、できる準備を整えチーム一丸となって取り組んで欲しい。